

# 市長が行く

No.140

茂原市長 田中豊彦



## カーボンニュートラルとグリーンアウト

先日、東京電力木更津支社長さんが市役所にお見えになり、この夏と冬の電力需給についての説明を受けました。

皆さんもご存じの通り、世界

中でカーボンニュートラル

(温室効果ガスの排出量と吸

収量を均衡させること)が叫

ばれて、日本でも2050年

までに温室効果ガス排出量実

質ゼロを目指す対策が打ち出

されています。一方、火力発

電所の休廃止増加や、今年3

月の福島沖地震の影響等によ

る供給力不足、またコロナの

影響等により経済社会構造が

変化する中での電力需要の増

加、さらにはウクライナ情勢

等により、不確実性が高まる

燃料調達のリスクなどにより、

今夏今冬の電力需給は厳しい

見通しとなっています。その

ため、電力供給不足を解消す

べく、先日休止していた姉崎

火力発電所を再稼働し、当面

夏場の電力不足解消には何と

か間に合ったようです。

再生可能エネルギーが注目

されていますが、今のところ

発電では20%の供給力で、火

力発電をカバーできるところ

までは至っていないため、火

力発電所が故障や何らかのト

ラブルなどで稼働しなくなる

と、たちまち電力供給不足が

心配されることになってしま

います。また、冬場の供給能

力に至っては、太陽光発電の

発電量が急激にダウンするた

め、今の状況でもぎりぎりの

供給力しかなく、おそらく

1月2月には、さらなる節電

要請が行われると思います。

地震多発の日本では、原

子力に依存することはでき

ず、自然エネルギーでは足り

ず、化石燃料による火力発電

に頼らなければ電力供給を維

持することが難しいのかもしれ

ません。2050年カーボ

ンニュートラルを目標にして

いる日本には、かなり難しい

舵取りになりそうです。それ

でも私たちは、しっかりと未

来を見据え、地球温暖化を抑

制するために電力使用量を抑

える努力を続けていかなくて

はなりません。もう一度生活

を見直し、一人一人が無駄な

電力を使わないよう心掛けて

いくことは、大切なことです。

ブラックアウトを避けるため

にも！

(7月14日 執筆)